神戸大学大学院保健学研究科

Graduate School of Health Sciences *2023*

Message　研究科長メッセージ

神戸大学大学院 保健学研究科長
秋末　敏宏

神戸大学は1902(明治35)年の創立以来、昨年(2022年)には120周年を迎えた歴史ある大学です。現在、10学部15研究科、学生総数約16,000名からなる総合大学として日本でも有数の研究･教育機関であり、「学理と実際の調和」を理念として、進取と自由の精神がみなぎる学府です。神戸大学は、文系･理系のバランスが良く、ともに優れた業績をあげています。また、文系･理系の垣根が低く、文理融合の研究が展開されていることもその特徴の一つであり、新たな学問領域を生み出す潜在的な能力が高い大学です。

保健学研究科は、大学院前期課程(各学年64名)、後期課程(各学年25名)の定員があり、我が国でも有数な規模と研究推進大学としての質の高さを誇っています。専門領域としては、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域の3基幹領域と、融合領域のパブリックヘルス領域から構成されています。各領域では、専門的知識･能力とともに創造性に富んだ研究者としての資質を養うように心がけています。さらに、2016(平成28)年度からは大学院に助産師および保健師の教育課程が開設され、ハイリスク妊娠･分娩の管理や保健行政･国際機関で活躍できる医療専門職の養成を行います。このように保健学研究科では、高度専門人材･研究者や将来教員として働く指導的人材の養成を推進しています。

神戸大学は、世界中の様々な大学と交流を持っています。保健学研究科においても、2012(平成24)年度から4年間実施した世界展開力強化事業においては、ASEAN諸国トップ5大学との連携の下、大学院生の短期･長期における交換留学を実施し、アジア地域における次世代保健学グローバルリーダーの育成に努めました。2017(平成29)年度からは、環太平洋諸国との連携･協働による次世代グローバルヘルスリーダー育成プログラムを実施してきました。英語教育に関しては、英語のみで大学院課程を修了できるInternational Course for Health Sciences(ICHS)コースを設置しており、グローバル化への対応を進めています。現在、アジア諸国では、今後到来する少子高齢化への対策が必要とされていますが、保健学研究科では2016(平成28)年度にアジア健康科学フロンティアセンターを設立し、アジア諸国を見据えて、感染症対策、母子保健、生活習慣病対策、超高齢化対策など包括的な問題解決に取り組んでいます。日本における超高齢社会の経験を踏まえて、海外大学･研究機関、WHOなどの国際機関との連携により構築された共同研究ネットワークを活用し、アジア諸国の保健衛生課題に取り組んでいきたいと考えています。

医療分野の中では、工学分野･情報科学分野と連携したICTを活用した健康管理システムの構築や医療機器開発が強く望まれています。2013(平成25)年度からは、国立研究開発法人情報通信研究機構との間で、更に、本年度(2023年)からは、国立研究開発法人医薬基盤･健康･栄養研究所との間で連携講座を設置しました。これらのナショナルセンターとも連携して共同研究を進めています。また、2021(令和3)年度からは神戸大学大学院の複数研究科(保健学研究科、医学研究科、工学研究科など)にまたがって横断的に実施する医工創成の教育プログラムとして、デジタル医工創成学コースを開設しました。さらに、企業等との共同研究開発事業も精力的に実施しています。神戸大学では、2018(平成30)年度より超高齢社会において喫緊の課題となっている認知症に焦点を当て、文理融合のオール神戸大学体制で「認知症予防プロジェクト」を開始し、2020(令和2)年度には保健学研究科に認知症予防推進センターを設立しました。また、2022(令和4)年度には、保健学研究科および人間発達環境学研究科を中心としたウェルビーイング先端研究センターを全学センターとして設立し、医療保健分野に留まらない人類のウェルビーイングを学際的に研究、社会実装していく取り組みを開始しました。新型コロナウイルス感染の収束が見通せない困難な状況を乗り越え、多元化･複雑化･流動化するポストコロナ時代を見据えた、より学際的で異分野共創型の新研究領域をさらに開拓し、新しい時代を切り拓いていく人材を育成していきたいと考えています。

Mission & Vision　理念と目的

基本理念

保健学は心身の健康や疾病･障害に関する教育と研究を通して、人類の幸福と社会福祉の向上に寄与する実践的学問です。心身の健康や疾病･障害は個人及び集団を対象として、身体的、精神的、社会的、倫理的側面から総合的に把握する必要があります。これが神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻の掲げる総合保健医療(total health care)の基本理念です。

目　的

幅広い教養、豊かな人間性と倫理性を共通基盤として、①総合保健医療を確立するために必要な独創性と創造性を備えた研究者、②豊富な臨床経験とリサーチマインド、統率･管理能力を備えた高度医療専門職者、③臨床能力、研究能力、教育能力を備えた大学教員、④コミュニケーション能力や多文化理解能力を備え、国際保健を推進する高度医療専門職者を養成することです。

到達目標

上記の理念と目的を達成するために、5年間の博士課程を一貫したものとして捉え、博士課程前期課程と博士課程後期課程における到達目標を以下のように設定します。

前期課程では、臨床実践能力、直面する問題を多角的に分析する能力、問題の解決に必要な研究能力を涵養し、チーム医療、チームケア、総合保健医療、国際医療保健の中で活躍できる高度医療専門職者を養成する。本課程のなかに家族看護専門看護師課程を設置し、専門領域での認定等に関わる教育を効果的に取り込む。

後期課程では、前期課程において修得した分析能力、問題解決能力、研究能力を更に高度化し、創造的･開発的研究を通して新しい総合保健医療を創造･実践、教育できる独創性、創造性豊かな教育･研究者を養成する。

Admission Policy　アドミッション・ポリシー

保健学研究科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、崇高な倫理観と科学的視点を持ち、人類の健康と幸福に貢献する人材を育成するために国際的にも卓越した保健医療・健康科学に関連する教育を提供することを基本理念としています。このため次のような学生を求めています。

博士課程前期課程

■ 保健学研究科博士課程前期課程の求める学生像

1.明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
〔求める要素:知識・技能、関心・意欲〕
2.論理的考察力と客観的判断力を持った学生
〔求める要素:思考力・判断力・表現力〕
3.国際的視野に立って、研究・実践する能力を持った学生
〔求める要素:知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
4.自らの専門性に対する誇りと協調性を持った学生
〔求める要素:主体性・協働性、関心・意欲〕

■ 入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、保健学研究科博士課程前期課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

一般入試、保健師コース、助産師コース、社会人特別入試および外国人特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

博士課程後期課程

■ 保健学研究科博士課程後期課程の求める学生像

1.明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
〔求める要素:知識・技能、関心・意欲〕
2.論理的考察力と客観的判断力を持った学生
〔求める要素:思考力・判断力・表現力〕
3.国際的視野に立って、研究・実践する能力を持った学生
〔求める要素:知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
4.自らの専門性に対する誇りと協調性を持った学生
〔求める要素:主体性・協働性、関心・意欲〕

■ 入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、保健学研究科博士課程後期課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

一般入試、進学試験、社会人特別入試および外国人特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

Curriculum　カリキュラム（教育課程・修了要件等）

大学院の教育方法に関して、大学院設置基準第12条に、「大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。」と規定されています。

本研究科前期（後期）課程の修了要件についても、当該前期（後期）課程に２年（３年）以上在学し、規定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士（博士）論文の審査及び最終試験に合格することが規定されています。

なお、前期課程及び後期課程とも中間発表を行い、研究指導の成果、研究の進捗状況を的確に把握し、その後の研究指導をより効果的に行うこととしています。

本研究科における研究指導は、入学した学生ごとに、指導教員と学生との間で研究指導題目を定め、指導教員と副指導教員及び関連分野の教員により、幅広く効果的に行うほか、総合研究プロジェクトに参加させる等、研究能力の向上や共同研究の手法にも習熟できるよう配慮しています。

■ 大学院設置基準第１４条に基づく教育方法の特例

本研究科では、授業の選択の幅を広げ、単位を取得し易くするために、夜間・土曜日に開講している授業があります。この夜間・土曜日の開講科目だけで、規定単位を取得することが可能です。

■ 長期履修制度について

本研究科では、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を越えて一定の期間（前期課程上限２年; 後期課程上限３年）を加えた年数以内に計画的に履修し課程を修了することが可能な制度を設けています。

■ ティーチング・アシスタント（TA）制度について

優秀な大学院生に対し、教育補助業務を行わせ、学部教育におけるきめ細かい指導の実現や大学院生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供し、これに対する手当支給により、大学院生の処遇の改善の一助としています。

大学院生学位論文発表会

■ リサーチ・アシスタント（RA）制度について

将来、研究者となる意欲と優れた能力を有する後期課程の学生に対し、本学において行う研究プロジェクト等に、研究補助者として参画させ、研究活動の効果的な推進を図るとともに、研究補助業務を通じて研究遂行能力の育成を図ります。また、これに対する手当支給により、大学院生の処遇の改善の一助としています。

■ 学位について

本研究科前期課程、後期課程の修了要件を満たした者に、それぞれ修士（保健学）、博士（保健学）の学位が授与されます。

保健学研究科の概要

保健学

- 看護学
- 検査技術科学
- 理学療法学
- 作業療法学

他学部

- 栄養学
- 教育学
- 農学
- スポーツ科学
- 社会福祉学　等

保健学研究科

融合領域

パブリックヘルス

- 感染症対策
- 保健協力活動
- 国際開発
- 健康の維持・増進
- ケアシステムの構築

基幹３領域

看護学

- 看護実践
- 療養支援
- 家族ケア

病態解析学

- 病因・病態の解析
- 診断技術の開発

リハビリテーション科学

- 障害者・高齢者の機能回復
- 生活の質向上

基幹3領域（看護学、病態解析学、リハビリテーション科学）と
融合領域（パブリックヘルス）

基幹領域と融合領域との連携を通して、多角的視点に立った教育・研究が可能

看護学領域

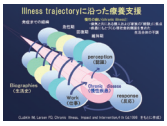
看護学領域では、卓越した専門知識と実践能力をもった人材を育成し、医療の高度化に対応する先進的研究を通じて看護学の発展に寄与することを理念としています。特に臨地と研究をリンクしたトランスレーショナル・リサーチの実施、国際的並びに科学的な視野に立脚したエビデンスレベルが高い看護学研究の発信をするために、以下の5分野を設けています。

教育研究分野

療養支援看護学

療養支援が必要な健康課題や健康障害を持つ個人・家族を対象に、健康維持及び健康回復、並びにQOLの向上を目指した療養継続に必要な看護支援方法の開発、及び、これらに関する研究教育を行います。

指導教員　教　授：宮脇 郁子



実践看護学

看護実践技術の開発と、高度な看護実践能力の開発を目指した看護実践に関する研究教育を行います。

指導教員　教　授：石井 豊恵、石田 達郎

生活支援開発看護学

高齢者・認知症高齢者とその家族に対し、急性期における看護から在宅支援までを包括的に捉え、対象者を取り巻く環境やチームアプローチも視野に入れた看護支援方法の開発と理論構築を行います。
また、人のこころや行動に焦点をあてながら、こころの健康をより高めるためのケアや、こころの健康問題・困難をもつ人々へのケアを学問として探求していきます。

指導教員　教　授：グライナー 智恵子
　　准教授：山口 裕子

家族看護学（CNSコース）

家族看護学分野では、国内外においてこどもをもつ家族の健康危機への適応、あらゆる家族の家族機能の維持・向上を支援する家族支援モデルの開発を行います。また、診断・治療に関わる家族支援CNS（専門看護師）を養成しています。

指導教員　教　授：法橋 尚宏
　　准教授：副島 尭史

母性看護学助産学

母性看護学分野の研究理念は、EBNに基づき臨床現場に還元可能な研究を発信することです。「周産期の安全と質保証」を中心に管理・経営学的視点まで広範囲に及びます。また、2016（平成28）年度から「助産師コース」として、助産師国家試験受験資格と修士の学位の取得を目指す教育が開始されています。

指導教員　教　授：齋藤 いずみ
　　准教授：千場 直美

産科救急演習風景

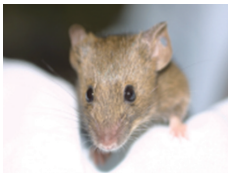
病態解析学領域

病態解析学領域では、医学・保健学の観点から、健康と疾病に関する研究を進めています。その成果を世界に向けて発信し、医学・保健学、そして医療における新しい発見と進歩に寄与することを目指しています。志が高く、人間性と創造性に富み、明日の医学・保健学を開拓できる医療職者、研究者及び教育者を育成するため、以下の4分野を設けています。

教育研究分野

分析医科学

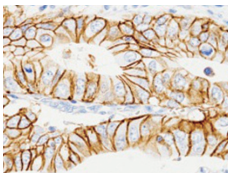
臨床化学、生化学、分析検査学を専門分野とする教員で構成され、病態解析学領域における分析医科学分野の教育と、病因・病態解析に関する新たな方法論の開発や再生医療に関する研究を行います。



指導教員　教　授：堀 裕一
　　准教授：大﨑 博之

細胞機能・構造科学

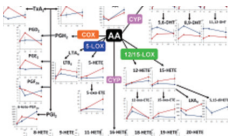
細胞・組織の機能や構造を明らかにし、生命科学の奥義をひもとくとともに、疾患の新しい診断・予防・治療法を開発するため、血液・腫瘍学、免疫組織化学、生命情報発現学等に関する教育研究を行います。



指導教員　教　授：伊藤 光宏、鴨志田 伸吾
　　准教授：駒井 浩一郎

病態代謝学

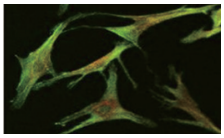
疾病の代謝や神経生理機能と病態のメカニズムを明らかにし、治療法の開発を目指しています。



指導教員　教　授：木戸 良明
　　准教授：森 正弘

臨床免疫学

関節リウマチ・膠原病の臨床的病態研究を踏まえ、自己免疫の機序にアプローチしています。様々な新しい診断法や治療法を臨床の現場へ発信することを目指して、免疫学の真髄を探求していきます。



指導教員　教　授：柱本 照

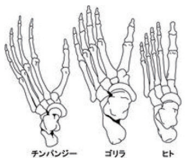
リハビリテーション科学領域

リハビリテーションの基本理念は、「全体的な人間としての障害者の人間らしく生きる権利の回復、すなわち全人間的復権」であり、リハビリテーション科学は、その学問的基盤です。リハビリテーション科学領域では、理学療法学、作業療法学分野を中心とした教育・研究者や臨床現場のリーダーたる高度専門職者を育成することを目指しています。

教育研究分野

生体構造学

発達や加齢、疾病や障害によって起こる生体の形態的、機能的変化を基礎医学的方法を用いて解析するとともに、リハビリテーションの場で行われている様々な治療の効果や影響を科学的根拠に基づいて実証し、臨床に応用していくことを目的としています。



指導教員　准教授：荒川 高光

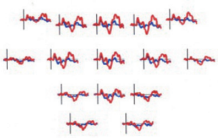
運動機能障害学

運動機能障害を臨床から細胞・分子まで幅広い視点で解析し、効果的なリハビリテーション治療を開発・検証します。また、中枢性疾患に起因する運動・高次脳・認知機能障害に対する評価法及びリハビリテーション介入技法の開発等を行います。

指導教員　教　授：藤野 英己、森山 英樹、秋末 敏宏
　　准教授：三浦 靖史、長尾 徹、野田 和惠、**前重 伯壮**

脳機能・精神障害学

感覚・運動・認知・精神機能等、主に中枢神経系が関わる諸機能について障害を全人的に捉え、健康で質の高い生活を営む妨げとなる病態を基礎及び臨床科学的研究方法で解析し、障害に応じたリハビリテーション技法の開発を行います。



指導教員　教　授：橋本 健志、古和 久朋
　　准教授：林 敦子、四本 かやの

健康情報科学（連携講座）

情報通信研究機構の脳情報通信融合研究センター(CiNet)と連携し、先端的認知科学及び情報通信技術を基盤とする新たな保健学研究に必要な基礎知識及び技術の習得並びに思考力の涵養にかかわる教育を行います。

指導教員　教　授：**細田 一史**
　　准教授：**小作 浩美、上口 貴志**

パブリックヘルス領域

本領域は地域社会を基盤とした医療･保健システムを開発、実践しかつ健康課題の解明に取り組み、また、国際的観点から緊急に対応しなければならない医療や保健に関わる諸問題やその要因を研究する、多職種からなる融合領域です。グローバルな視点で総合保健医療が実践できる日本･アジア双方向型高度医療専門職、国際社会の多様な問題を克服できる医療･保健･公衆衛生･感染症を専門とするグローバルリーダーを養成し、国内外の健康課題を探求する保健学実践研究拠点となることを目指します。

教育研究分野

地域保健学

地域に存在する様々な問題を科学的な視点から解決するため、研究者や高度医療専門職人の養成及び地域保健･公衆衛生看護に関する総合的な実践能力と高い管理能力を持つ人材を社会に送り出すために教育を行います。また、2016(平成28)年度から「保健師コース」として、保健師国家試験受験資格と修士の学位の取得を目指す教育が開始されています。

指導教員　教　授：和泉 比佐子、西村 範行
　　准教授：中山 貴美子

健康科学

生活習慣病を中心とした疾病の予防、健康維持を目的に食事･運動･睡眠等の生活習慣を科学的に分析し、健康維持に役立つ新しい知見を明らかにします。特に、糖尿病と呼吸障害に焦点を当てて研究を進めています。

指導教員　教　授：安田 尚史、石川 朗

国際感染症対策

本分野は、ウイルス学、細菌学、寄生虫学、臨床医学を専門とする研究者により構成され、最新医学の先駆的研究を利用して、流行地の感染症発生状況の把握や調査、感染制御対策、病原体検査、ワクチン開発や新薬探索などの分野における技術革新に貢献する先駆的な研究を行う。世界的規模の優れた学生を惹きつける卓越した教育の場を提供している。

指導教員　教　授：亀岡 正典
　　准教授：入子 英幸
　　教　授：白川 利朗（科学技術イノベーション研究科）

国際保健学

国連やWHOが掲げる"Health For All"や"Universal Health Coverage"を実現するためには、国際保健の視点が欠かせません。新興感染症や災害や環境問題は国内に閉じておらず、物や人の移動を通して容易に世界中に広がります。一方では、国際労働移動等に伴って慣れない自然環境や異文化の中での生活を強いられる人々が増加し、異文化間でのプライマリケアの提供も大きな課題となっています。こうした現状の中で、国内外で展開している研究を通して、フィールドや臨床の現場での問題発見や実際の問題解決のための活動に取り組んでいる分野です。

指導教員　教　授：中澤 港、松井 三明
　　准教授：井澤 和大、小寺 さやか

予防医療学（連携講座）

医薬基盤･健康･栄養研究所の国立健康･栄養研究所（NIHN）と連携し、運動と栄養についての知識を基盤とする新たな保健学研究に必要な幅広い最先端の知識（疫学、栄養学、運動学、エネルギー代謝学）及び技術（栄養素測定、エネルギー代謝計測、身体活動計測等）の効率的な習得並びに俯瞰的思考力の涵養に係る教育を行います。

指導教員　教　授：小野 玲
　　准教授：吉村 英一、山田 陽介

Topics　トピックス・特色

POINT 1　総合大学の利点と学際的アプローチ

我が国は少子高齢社会を迎え、医療・保健課題も病院から地域へ、[disease　oriented] から [health oriented] へとシフトしています。健康維持・増進、障害からの回復、保健・医療制度の整備等の課題は、保健学研究科だけでは解決できません。神戸大学は文理融合型の総合大学であり、他分野との連携、分野横断的な学際的教育研究体制が柔軟に構築されています。また、学内には、地域連携センター、アジア健康科学フロンティアセンターもあり、産学官共同研究の海外や地域への展開、成果の社会還元のチャンネルも充実しています。

POINT 2　家族支援専門看護師（家族支援CNS）コース

本学は、「家族看護学」という新しい分野のフロントランナーです。前期課程には、わが国に6校しかない家族支援専門看護師（Certified Nurse Specialist: CNS）コースがあります。CNSは、看護職の最上位の資格のひとつ（高度実践看護師）で、診断・治療に関わり、ケアとキュアを融合した高度な看護実践を展開できる教育課程を導入しています。本コースでは研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援を実践でき、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指しています。

POINT 3　英語コース（International Course　for Health Sciences: ICHS）

2012（平成24）年度より前期課程の大学院生を対象に英語コース（International Course for Health Sciences: ICHS）を開講しました。2014（平成26）年度からは後期課程の大学院生にもICHSが開講されました。これは、大学院生がその修学期間を通じて英語のみで単位を取得し、修了することができるコースです。専任教員による英語講義に加え、ネイティブ教員による通年の講義、また、夏季には国内外から国際保健分野の専門家を講師として招いてSummer Educational Programを開講しています。本コースを受講することで、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を身に付け、海外における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践することができます。国際貢献できるより高度な保健実践専門職者を養成することを目的としています。

POINT 4　デジタル医工創成学コース

2021（令和3）年度より、デジタル医工創成学コースが、医学研究科および工学研究科と共同して開設されました。本コースは、〝日本型医療機器開発エコシステム〟の確立を目指し、プロジェクトマネジメントが可能な医療機器開発のリーダとなる創造的開発人材を養成することを目標としています。そのため、医学・工学・保健学の学生が一緒にダイバーシティーのある模擬チームを構成、失敗経験も含めた実践経験が可能な教育環境を提供し、さらに、医療現場でのニーズ探査により、実践的な考える力を醸成するため、リサーチホスピタル内にメディカルデバイス工房を設置、その場でチームが医療機器のコンセプトデザイン、プロトタイピング試作を行い、実践的なディスカッションが可能となる環境で学んでいただきます。

POINT 5　海外研修

大学で修得した知識とスキルをより実践的なものにするとともに、チャレンジ精神やコミュニケーション能力を養うために、環太平洋諸国の大学と提携し、大学院生の双方向型の交流を実施しています。「環太平洋諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」と名付けたこのプログラムでは、海外提携校における既存カリキュラムを活用した講義・実習、附属病院・研究室での実地研修等を行うとともに、所定の単位も認定されます。

また、看護学領域に関してはキャンパスアジア・プラス・プログラムの一環として、チュラロンコン大学とダブルディグリープログラムを開始して、プログラム参加者を募っています。

POINT 6　前期課程における保健師と助産師の教育

本学では、2016（平成28）年度より前期課程において保健師及び助産師を養成しています。保健師教育では、優れた研究能力とエビデンスに基づく確かな実践力を備え、学際的及び国際的な視座から地域社会の複雑多様な公衆衛生上の健康課題を解決できる高度専門職としての保健師を養成しています。助産師教育では、正常範囲の助産診断技術に加え、ハイリスク管理、管理経営能力、国際的視野、研究能力に優れ、自律した専門性を有し幅広く社会貢献できる高度専門職としての助産師を養成しています。

進路・奨学金・アクセス

主な進路（2016(平成28)年～2022(令和4)年度修了）

【前期課程】

- 国立大学法人 神戸大学
- 神戸大学医学部附属病院
- 兵庫医科大学病院
- 大阪市立大学医学部附属病院
- 兵庫県立病院
- 神戸掖済会病院
- 神戸市立医療センター中央市民病院
- 兵庫県立がんセンター
- 北播磨総合医療センター
- 国立病院機構　北海道医療センター
- 国立長寿医療研究センター
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）
- 兵庫県
- 神戸市
- 東京都
- アステラス製薬株式会社
- エーザイ株式会社
- 沢井製薬株式会社
- 塩野義製薬株式会社
- シスメックス株式会社
- 富士フイルム和光純薬株式会社

（大学･短期大学･専門学校の教員になった者8名）

【後期課程】

- 国立大学法人 神戸大学
- 国立大学法人 北海道大学
- 国立大学法人 熊本大学
- 大阪府立大学
- 京都府立医科大学
- 公立大学法人和歌山県立医科大学
- 自治医科大学
- 神戸大学医学部附属病院
- 京都大学医学部附属病院
- 大阪医科大学附属病院
- 国立長寿医療研究センター
- 地方独立行政法人国立病院機構　神戸医療センター
- 奈良県総合医療センター
- 国立研究開発法人 情報通信研究機構
- ガジャマダ大学（インドネシア）
- 堺市
- 株式会社カネカ
- 株式会社大塚製薬工場
- 日本IBM株式会社

（大学･短期大学･専門学校の教員になった者44名）

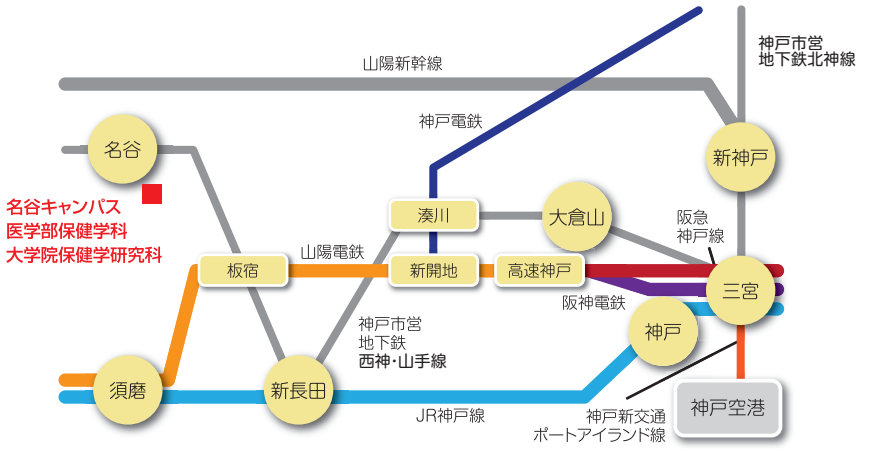
奨学金制度

本学で取り扱っている奨学金は、以下のとおりです。

1.独立行政法人日本学生支援機構
2.民間奨学団体･ 地方公共団体の奨学金制度
3.神戸大学独自の奨学金制度

また、奨学金の種類には、卒業（修了）後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給与」とがあります。

アクセス



【利用交通機関】　神戸市営地下鉄「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分。
（神戸市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分）

神戸大学大学院保健学研究科

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7-10-2
TEL：078-796-4504　FAX：078-796-4509
http://www.ams.kobe-u.ac.jp/